

講演会「皮膚筋炎/多発性筋炎の病態と最新医療について」

講演会は終了しました

日時 令和2年10月3日(土) 13:30~15:00
場所 サンシップとやま 701号室
参加者 本人及び家族 32名(うち5名はWeb参加者)
講師 済生会高岡病院 リウマチ科医長 奥村 麻衣子先生



講演の概要

- 症状等** ・多発性筋炎は自己免疫性の炎症性筋疾患であり特に近位筋の筋力低下を特徴とし皮膚筋炎は上記に加え定型的な皮膚症状が特徴。
・立ち上がれない、階段昇降困難や嚥下困難、半数に間質性肺炎、悪性腫瘍の合併あり。
- 治療** ・第一選択薬はステロイドと免疫抑制剤の併用を行う。
- ステロイドの副作用** ・骨粗鬆症、感染症の誘発、糖尿病、動脈硬化、無菌性骨壊死など

質疑応答

- Q1 ステロイドの離脱は可能か?**
ステロイドの反応性は良いが再発しやすく離脱はなかなか難しい。
- Q2 ステロイド服用者は新型コロナに感染すると重症化するか?**
ステロイドや免疫抑制剤を服用している人が重症化するという報告はない。
- Q3 ステロイドと歯の関係について**
感染しやすいので虫歯や歯周病のリスクは高くなる。半年に1回は定期検診を受けたほうがよい。
- Q4 ステロイドと免疫抑制剤服用中。免疫が落ちていると言われるが具体的な数値が分からない。**
免疫が落ちているかどうかははっきりした指標はない。白血球(リンパ球)の値を参考にしている。
- Q5 抗MDA5の場合、急速に進行する肺炎になる可能性が高いときいている。その兆候を知りたい。**
95%の人が間質性肺炎になる。皮疹が呼吸器症状の増悪の指標になる。月1度受診し血液検査と症状の変化を診てもらおうようにしたほうがいい。
- Q6 早期に閉経してしまった。ステロイドを服用しながらホルモン補充治療を受けられるか?**
ホルモン補充療法は血栓症のリスクがあるので治療をする時は注意をしながら受けることになる。
- Q7 新薬の開発状況を教えて欲しい**
今後もステロイドと免疫抑制剤が主体となるだろう。レナバサムという新薬は免疫抑制を示さず炎症症状が改善できる。
- Q8 筋肉の検査数値は正常だがだるさや腕の重さがある。筋トレをしたほうがいいか?**
膠原病は筋炎に限らず倦怠感が残る。治療しても100%には戻らない。病気がおちついていればウォーキングをしてはどうか!